

(a)初発の意見を基点として見た「予想される反論への反論」

「予想される反論」と「それへの反論」との関係パターンとして、以下の二種が得られた。裏→反復(42)、裏→拡充(23)、転換→拡充(17)、転換→反復(7)、限定→反復(2)、裏→逸脱(1)、裏→矛盾(1)、裏→具体(1)、裏→展開(1)、無反応(7)。「予想される反論」には、裏(初発の意見の裏返しのもの)、転換(新しい観点に立って初発の意見をとらえ直しているもの)、離反(初発の意見と全くかけ離れているもの)、限定(初発の意見の一部を限定的に取りあげているもの)という四つの反応類型がある。また、「それへの反論」は、初発の意見に対して、反復・拡充・詳述・逸脱・具体・展開という六つの関係で反応している。

この両者の組合せで、もっとものぞましいものとして期待していたのは、「転換→拡充」であったが、これは、全体の一五・四パーセントしかない。「予想される反論への反論」を創出する作業は、単に説得のための修辭としてだけでなく、意見の内容の拡充をはかる創構活動としての意義が大きい。また、これを創出するためには、視点の転換が円滑に行われる必要がある。この標本群は、必ずしも満足すべき水準にないことを表している。

〈著者紹介〉

大西道雄(おおにし みちお)

昭和6年(1931年)広島県に生まれる。

昭和26年(1954年)3月、広島大学教育学部卒業。広島県立三原高等学校教諭・広島県立広島国泰寺高等学校教諭・広島県立教育センター指導主事を歴任する。

昭和56年(1981年)4月、福岡教育大学に移り、昭和61年(1986年)4月より3年間、附属福岡小学校長を併任する。現在、福岡教育大学教授。

〈主要著書〉

『短作文指導の方法—作文の基礎力の完成—』(明治図書 昭和55年〈1980年〉)

『学習の手引き 国語科授業の改善』(明治図書 昭和62年〈1987年〉)

『小学校国語科授業研究』(共著 教育出版 昭和60年〈1985年〉)

『表現教育の理論と実践の課題』(共著 明治図書 昭和60年〈1985年〉)

〈主要論文〉

『個を生かす国語科授業の臨床的研究』(広島大学光葉会「国語教育研究」 昭和55年〈1980年〉)

『論説文指導の基礎的研究』(全国大学国語教育学会「国語科教育」 昭和57年〈1982年〉)

『授業過程における児童の文章理解2』(「福岡教育大学紀要」 平成元年〈1989年〉)

〈現住所〉

〒811-41 宗像市赤間729 福岡教育大学宿舎223号

意見文指導の研究

平成2年3月15日発行

著者 大西道雄

発行所 株式会社 溪水社

広島市中区小町1-4 (〒730)

電話 (082)246-7909

FAX (082)246-7876

印刷 中本総合印刷株式会社